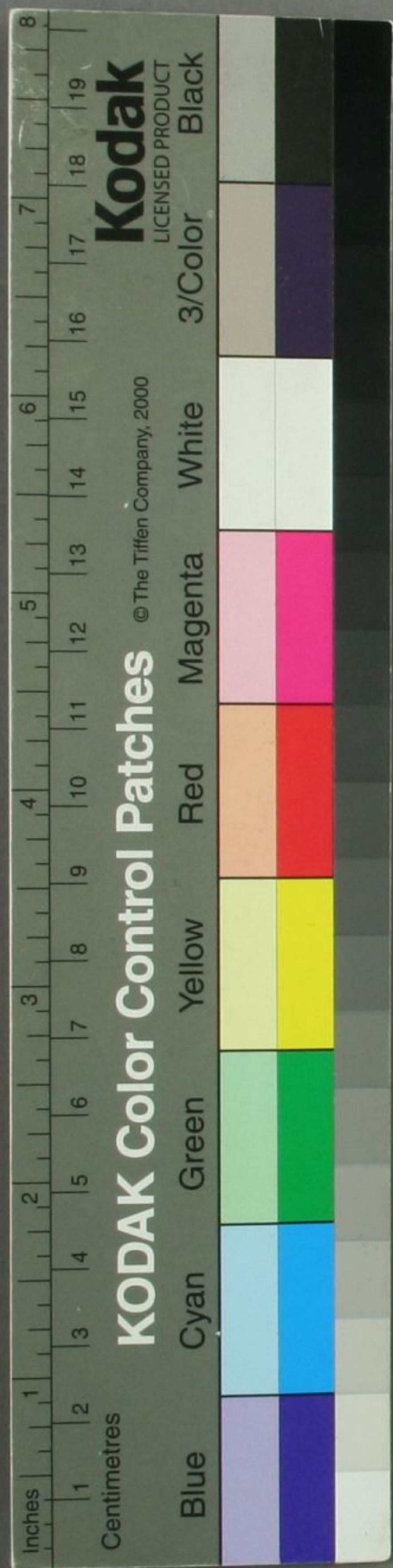






ゆふふはちてよりなる式部
筆の如くわたり長第一聲
人倚樓とふ句をけの文子
作者の文子と題倚樓と
吟ふもいふ和漢と人妙な
かゝる我祖為那須とや

山子おいて御免の幽栖を
尋ね痛やういふ
わが國はさういふけいの
志けのわき木はすれ出
音張りぬていふはうのま

おれり何のいふにやを
木塚島老人のうた今
その痛張るやうい
と我桂、既にさういふ
えうに感さる事いふ
賀れ山中うたは猿

小義張させさるの志けを
しし木家なるおの
にわろくはたさるお
風ひきさるしよ
あす我柱ら名ふされし
あす我柱ら名ふされし

徳におこもる年子十
いふものけつき集
踊る序をとぬる
美名もさる昔志
あふく採る病る
十子歳の老眼をわ

のこも耳木をたてて
南隠をわらわき服鏡を
不用識

又改より年初る

杉風四世



伏芝のかか貝手枕の氣味初音
の傍にわらわ白虎の忠知木
のこも水木をたてて
大いさにもて伏芝の氣味初音
あまのたのめとわらわ何り

ふはな枝ねむの枝の枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝

あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝
あふの枝まふの枝

日 子 花 草 図

花 草 図

田 喜 儀 物 誌



二日々々
乃乃乃乃
乃乃乃乃
乃乃乃乃
乃乃乃乃
乃乃乃乃
乃乃乃乃
乃乃乃乃
乃乃乃乃
乃乃乃乃

五

桂

紫莖綠葉香秋風衆草同
生質不同曾入佳人良夜
夢國香千歲更無窮

題蘭

最勝幢龜山

同

少壯事名岳
 佳入江口
 吾母老色
 五情年
 東園拙無家

冥々然と云々
照る
ら
神代
茂

折ふくに花
はるかなる
雲の空
二
代
茂
宗

をち義や蚊のこもふく木下署
三代 茂榮

糸くさくハ馬毛白
秋の風
只代
茂葉

志の雲のまゝくや早稲の急来縁

遠
里やむの原波
を驚の南く
士
朗

授うちまのふー村もろくでなし
研石

筆の美、風の如く家よりぬく
乙 二

菊々雲霞明共水山一沙底見ノ旦

又母は南のふちすきぬ名ふふー
二二尺まきえはけそむーのき
錦車くやゆハ田ふふ校の林
くくもふふはさ紫輝くくふ
きくぬ人にくふせん相ふふふ
新嘉尔錦のふくむ藤をのふ
山能てふもすそ紫くくふの
そふふやふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ

午心
浦人
完未
桂中
月辰
紫兆
川金
本美
似新

きくふふふふふふふふふふふ
きくふふふふふふふふふふふ
紫くくふふふふふふふふふ
新嘉尔錦のふくむ藤をのふ
山能てふもすそ紫くくふの
そふふやふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ
くくふふふのふふふふふふふ

長島
茂柏
紫青
新言
何句
當二
みち
美鳩
星布

美多やあまのくさ敷の中、
穂葉

さ水に馬川、むやきーのき
忍山

つるあけ春のなほも春のき
和風

田原くさき路、あまやまのな、
細石

消のくさあけあまのき、
龜月

黒髪につけ、あまのき、
一郷

標のむきあけあまのき、
一馬を

観あけあまのき、
一羽

あにあけあまのき、
季峰

駒あけあまのき、
一信

あけの袖に照、むわのき、
鈴

あけあけあまのき、
山麓

あけあけあまのき、
群

あけあけあまのき、
一

あけあけあまのき、
一

あけあけあまのき、
一

あけあけあまのき、
一

あけあけあまのき、
一

あけあけあまのき、
一

竹馬のぼくははつ葉うけ 吉田 清河

美多に生 磯白くふさく 吉田 萩哉

うんさうな水にねる 鯉のふ 松サキ 又葉

名のせいのぬるハ 松サキ 松壽

春の月波南の海 新サキ 芦舟

群鯉の水 柏木 泰石

けろの夢に群 大貫 渚石

春の月柳 ナヲ 月彦

ふさねつ 江戸 丁組

実り 松ふ橋 以浦 得甚

先ふ春に 群葉むけ 甘田 茂林

むさの恨 甘田 芦風

ふさね 武田 如月

すぎ 原田 方舟

ふね 武田 胡蝶

長 中村 丸

白 中村 蝶

春 中村 伯海

世をさくくむく家の様うの事 スカリ 多代め
 白魚いそ終ある事候の梅の花 カサイス 菜旦
 何ぞさ案に相同門の柳うな 柳白 標立
 世業のちひのさくやう向のくみ茶井、 龍船
 多飾の伯母に何お夜や田原をく 魚 ちう流
 しくおうい 船川おくばりハ ツム 白鷗
 紅梅や人々を年のく案あすき サハラ 江戸
 むばうい 案夜も南のうらう サク 巨伯
 岡うの鐘もあうき 江戸 大梅

梅のうき水きき ミウラ 保水
 雪にちく終年始の礼案ハ ミウ 瓜凍
 ものく魚の白ひき ケナリ 既業
 案津風也天の指立 サキ 以さな
 案のきき 江戸 永本
 案に鐘ち 江戸 文義
 えりの 江戸 春流
 水長 江戸 龍力
 ち 江戸 松架

祇園金やちこの何ふ替ふ持扇子 ホリ内

九

ふもやあふふふふふふ
トブ

ト
ブ

那小女也心道多一休婦人

大又キ

桑子 風のくさくさ 煮

ホリノ内

峰ありふるのかくや百合の葉

上廿

山寺の巳の刻
夕暮清水の南

次

在所やゝるゝのこぞと深文の存

1

門
くちや
苔の
くちや
くちや
源
山
石

栞櫟
くろくろきりくろくの

1

くまの家の海老川うす紫也 標

二八

ほそくおもしろくわが世の歌

近

離家の人々を待たす

西大

山城より里山より田より市

1

那也水新流以之亦各有故

そこのの
くもふ
あき
ぬき
の
郡

ナリ

友山や何れぞふひきり

朝の戸や記合せり
あけしきぬ

臣

涼くさや小石南の海の水の香

權

ぼくもいぬを交換やうと子、
 水くは蘭田の田尻や糸ふのも
 糸ふにうまねねおなまき
 さく時ハ維もえふもの張りも
 糸機ふまきもぬふおのふ
 也勢勢の人に馴ふや交ふま
 井のむにうまねねおなまき
 ねに入や麦の穂風の歌ふま
 ふねふのくむもくおや帆のま
 農保
 鳴里
 雀
 ハ朗
 布白
 鳳尾
 流桂
 白羽
 砂川

つの井の名ふまき
 つき袖もく日髪もくす給ふ
 ちぬ人の心くまねねおなまき
 さく井やまきまのむもくひめ
 さふやまきまのむもくひめ
 さく井のむもくひめにふまき
 夕歌やまきまの急
 祇園金やまきまの急
 夏ふのくまきまの急
 雲
 一蕙
 ちき雄
 稚麦
 皎雪
 松山
 竹叢
 園
 嵐

きくもややうてなふも時多

エト

雪三

秋

月夜くもふ子の那くぬ里も南

秋

雅啄

蔓くさやうも伸て無にかほ

ナト

洞く

名月や破ふ南のあくさの露

ナト

赤紅

山るれ一ち海ぞ出ぬ夜半の鐘

ナト

文柳

うきふばくあふく衣あのみ

ナト

露玉

白露や夜さきくかき

ナト

紫柳

あふふやめうねくあふく

ナト

塩丸

静夜のくもりふれ綿くけ

ナト

与人

鶯のさのさふく

ナト

紫石

くもあふくもアそ白く

ナト

叶裏

き架くあつても津のかけア

ナト

桂丸

一町のくハ短くちふあき

ナト

葉く

夕暮や魚のくふく秋の風

ナト

一葉

千金のかせのさくお指のさ

ナト

其月

さ藤くあ紫にくくせばく

ナト

琴松

風ハくあきさのさあき

ナト

旦く

蝶のまゝうのきふむ我の入るる キチヨカ 致之

いふばやや松の鳥のうき啼 カトリ 松而

一鴨を物喰合ふや秋の寂 フナ 三

朝ふハぬれきくふふふ南 フナ 嘯有

秋ふりやふふふ秋のふふ フナ 風

ちふふふ誰うおふふふふの秋 フナ 知

ふふふにふのすふふふ フナ 嶺

辨々の朝ふむふにふふふ フナ 又史

白ふふやふふのふふふ フナ 玉河

枝々のふふふふふふふ フナ 可雲

松の根ふふふふふふふ フナ 梅室

引焼のふふふふ秋ふふふ フナ 美丸

朝ふむやむふのふにふふふ フナ 中

なふふふふふふふふ フナ 加夏良

のふふふのふふふふ フナ 昨而

氣ふふふのふふふふ フナ 楓夕

さふふのけのふふふふ フナ 子

床ふふのふふふふ フナ 如子

以

吟海

何真

三

終校

西大ス

吳璽

柳塘

蛟
月

大坂

全馬

ケニタ

仙容

九
五

十

秦笛

卷四

汶水

イノフ

有明

計
板

子

杜山

十三

卷之五

權尚

荳良

1

照
旌

九十一

豐明

すゝく 秋の 可ト

秋の水うつこの言を 芋人

秋の 文馬

南く 交風

水いふの 吐玉

不川に 松

相別し 土指

秋馬本戸や 雲

床那や 鏡月

秋の 里秋

ふさふさ 白光

冬

あゝぬき 雄巖

採る 新井

鬼面采の 唄山

咲く 春陽

新来の 家時

風や海に 瓶笛

空しくも二方にむきしと 帰るに 新井 葉月

夕暮るふくろく かしこひ 折のふ 新井 梅崎

ふくのやいやく 道は 隅田堤 大井 宝山

秋のそと 鳥のふくのふく 一 英 戸

物の子れ 提灯 あり 一 貞 上井

山松のふく けふ けふ 一 蕉 戸

かきよせ けふ けふ 一 咲 下井

山菜むや 久しく 人の歌も 久しく 富 早

水きにとりの 木のふく 一 為 曉

時をふや ほとけのふく 一 為 明

別ふも けふ けふ 一 為 明

ふく けふ けふ 一 葉

ねく けふ けふ 一 葉 戸

ふく けふ けふ 一 葉 大井

ふく けふ けふ 一 心 山倉

けふ けふ けふ 一 心 次井

けふ けふ けふ 一 心 由岐

けふ けふ けふ 一 心 倉

けふ けふ けふ 一 心 久

大台
歟
之
光

針
升
夫
眉
四

一 標

英
一
子

羅谷
清風

止
之
カミ川

又
明

支

疏文

風
為

収
山

叶人

款
卷
六

以浦
茂
松

類
龜
山

川柳

石
丸

芳里

狩野溪春齊画



木つゝき茂菊上人略傳

先師木は茂れ茂菊日徒上人東都谷中の人なり
その父は深人の所に事あるものにあらざる
やうにいひ傳ふ師七老をた其のうをた其
雲山日啓上人清くて羅髪より其清く
りし傳ふに他の身子に増る事にはさく奇特の
ありしをうをた其師不忘のありし其師
大僧都日圓阿闍梨京都満願寺においでに清

あゝ世直才とれ一已に上京も飽かり一以京師に
勤學したるをあらはせしとて京師も一海を去るの
ふきや梅檀林也や岩に入つ男をひき置きて
功を積ぶとて世を去るに中座をいひたり
某階あり安享元年の岩部麻衣山に入つ
師といふものありて武次河越にありて中門宗瑞
謂てやうとて詔書に同いせりといふ中門宗瑞
文を傳ふとて一ひき置きの企てて其角の酒を

の麻衣山と掃きけり根や一ひき置きの師といふ
いふとて一掃きけり根や一ひき置きの師といふ
せうはやうとて一掃きけり根や一ひき置きの師といふ
其風強きありて一掃きけり根や一ひき置きの師といふ
に獨りて一掃きけり根や一ひき置きの師といふ
かへ中にも既解梅丸の西士、麻衣山の根や一ひき置きの師といふ
この乃名羽真とて一掃きけり根や一ひき置きの師といふ
いふものありて一掃きけり根や一ひき置きの師といふ

の振らな海へ一田洞といふところへふ方部を余里の
海に却るをひくくものゆゑさういふ道の家
下にはのいせありくふ須は中いふおの家の
番に浴へむく一海の小新うものいふものや茶れ
きく一もさういふ道に用へる日利橋のなる舟の上に
くく一注記ありくもの易賣れた花の香はくくを
くひがく愛想のゆゑくく侍者につくく一ふれ葉も
ものくもさういふに志持もくくいふく本意がた業に用は

ゆきく一七族と麻名山送り茶の香をきく碑を
勤くく一海へきくくくく安閑に享来六十七とくく
下柳橋馬のいふく一既碑寛海法下り記をくく
領海の東由い風葉れ記に残く一墓獨のおもむく梅丸
日康と志碑銘に勤くくものきくくもの地生おれ
海へ海海端れ汝の海現にもの日記の海へ火を城
松崎象河の記りに目くく一合羽のおくく一みはくく
飯夷松最のくく波を温泉のくくくく一海に何と勝を

とあるうゝと著述するもの

馬鹿半刀録

池沼の辨相

藤本ゆづり

鰯 鰯 鰯

まけとのやう

ふの日記

日くゝ合目

温泉のむね

鰯 集

尚書外子稿數十卷とある。因て一旦羽集い上二世の
や成延化の存門へお費望羅岩に張集と綴集
とは各付きあがりなり。文章むねにや新裁
ふたにあらる。和詩に長く、頓挫に上と下

一世の像雄池沼の大河羅漢希世の國樓那なり。と
賛曰ふ師芭蕉翁の延化とある事、女末にあつて
半一ある其に正風建立の門葉十大方も、月も粗世
にふくむ。母師のはなはたにや、皆段々おちい
其角の酒底の鰯鰯にや、たにや、鰯の鰯に
おち中國や、何れも、今とて是は、今とて
や、其鰯の鰯も、何れ、鰯集、鰯集、今とて、
とある。とて世の鰯とある。鰯は清閑のおもむ

木崎菴の興り

桑の子や啼む春のよえぬは 文貫
樽の本面の夏宴のふり 茂桂
新ぼくは春の研に松の明る 川柳
小塚に交ふ松の多きさ 旬光
そぼくもぞ酢蓋のせは秋の立 十次
相のかく枝りけりぬ 貫
罽毼の灯にも眠る羽折きて 桂
落人うく寸むく 柳

臨の緒ふ年くもくも女又 光
岩陣の山なり月の手にえは 沙
え政のそとの勢ハ啼かせ 也
白蟻一ちくもそ腐る 桂
存のくえふもくも給も給も 新
林のちつさのもくもはふり 光
りやくも砂かきあふり 沙
海へ松かえは又親のきく 也
朝毎に鳥のくはす 桂

くさの草の根をぬくふ
飯前を煮るふすゝをひききくくく
何うおつけても南無太清門石
桑もこまてりもふきつゝ信濃駒
ろけものゝゆめのけく
こゝろみち死にりまゝぬき
手紙もつゝるそのゝゆり
袖ありのおまぬきあふ新 雀
聖ハ筑 一しゝはふ出ふ

桝 桝 桝 桝 桝 桝 桝 桝

さくくさく火くくくくくくくくくく
いふきくくくくくくくくくくく
おのゝ蔓の細くくくくく
仕揚ふ 成のきかに向一
喰口のゝあててくハ帰る
くくくくくくく馬にを乗あて
骨おてくくくはくくく打忘
くくくくくくくくくくく
まの本にくくくくくくく

桝 桝 桝 桝 桝 桝 桝 桝

弥生ふゆの長い風

掛

追加

くつろぎ無のり戸のち〜ち〜

アサハラ 壺

芝草にひふりしつゝの山 加年

水仙の系にも〜つゝ堤の南 白梅

夫の枝のめ〜つゝや飾をり、 表里

大あ〜つゝもまゐや山の 家 トモ 百 樽

水きやれつゝ輪ふ入輪ふりきぬ 山シラ 於 女

下はふさに杖をりて〜〜〜〜〜

あつち〜〜〜〜〜

の〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

